



公益社団法人 日本山岳会

宮崎支部報

第63号



「宮崎ウエストン祭」参加の日本山岳会会員

【第33回宮崎ウエストン祭に参加して】 櫻木 勉 (No.13818)

九重・阿蘇・大崩連山など九州の名だたる山が幾重にも連なる山岳風景が秋の透明な大気の中に浮き立つ三秀台で、「日本近代登山の父として知られる英国人の宣教師ウォルターウエストン師を偲び、山岳遭難者に哀悼の意を表し、登山の安全を祈る」行事が今年も行われた。特に今年は祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録が決定(6月)し、参加者も多く盛大だった。

田原小学校児童による点鐘に始まり、献花、主催者、来賓の丁寧な挨拶が続いた。中でも作文を朗読した小学生の吉村君と平田会員による詩の朗読は、先駆者を慕い山への感謝を込めた心打たれるものであった。最後にウエストン祭の歌は谷口敏子会員の名指揮で天まで昇る大合唱となり30分程で終了した。参加者は地元の人120名、山岳会員50名だった。その後祖母嶽神社にて神事が催され身を清めて頂いた。今後とも地元の高千穂町の人々と一緒になって、参加者を増やす対策を練る必要を強く感じた。

例年なら、この後は地元の田原地区村おこし推進協議会主催で交流会が催され、何よりも楽しみな「カッポ酒」の振る舞いなどがあるので大いに期待していたが、今年は県と高千穂町による“ユネスコエコパーク登録記念フェスタIN高千穂”の名で色々な催が行われた。

会員は途中から五ヶ所公民館に移動して予定よりも早く懇親会を開始した。素早く並べられた女性会員による心のこもった手料理に舌鼓を打った。他支部の北九州・熊本・福岡の山友も大満足のようだった。焼酎も効いてきて支部それぞれの懸案など話題が尽きない。時機をみて前原・四宮両会員による即席のひょっとこの面を付けての「ひょっとこ踊り」の余興には皆興奮して盛り上がり、他支部会員によるイタリアオペラの独唱など山友は皆芸達者であった。他支部会員はこのウエストン祭を楽しみにしていると言う人が多かった。

高齢化に伴う参加者減少傾向をくい止めるには、中・壮年への働きかけが大切だと思われる。

今回のウエストン祭が事故無く無事に終了出来たのも、会員全員による協力のおかげだと感謝している。

<コースタイム> 11/3 8:00 宮崎市内出発 -- 10:00 ちみろや -- 12:00 国見ヶ丘にて昼食 -- 14:30 三秀台到着
15:00 -- 15:35 式典 15:50 神事 16:20 -- 20:30 記念フェスタ 18:00 -- 20:45 懇親会 21:00 終了

<参加者> 宮崎支部: 久我慧子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・恒吉詔子・服部澄子・前原満之・荒武八起・都甲豈好・末永軍朗・谷口菊美・武田芳雄・櫻木 勉・服部岩男・四宮林三・畑島良一・平田五男・川越政則・栗巢タツ子・斎藤千代子(女性8名、男性12名)



三秀台に立つウエスタン顕彰碑とレリーフ

ウエスタン祭が続くことを願って

田原小学校 6年 吉村 悠陽

明治23年11月6日、祖母の頂きに立った彼は、何を思い感じたのだろうか。「日本アルプスの父」、「日本近代登山の父」として知られるウォルターウエスタン師が、祖母山に登ったのは今から127年前のことです。

祖母山、阿蘇山、久住山を一望するこの三秀台で、ウエスタン祭が行われるのも、今年で33回目になりました。そして今年は「祖母、傾、大崩ユネスコエコパーク」が登録される記念すべき年となりました。またこの山々には、僕が知らない植物、動物、景色が多くあることを知りました。

僕は明日祖母山に登ります。祖母山にはまだ登ったことがないので、ユネスコエコパークに登録された素晴らしい自然環境・景観を楽しみたいと思っています。

ウエスタン祭に際し、ウエスタン師を偲び、山岳遭難者に哀悼の意を表すとともに登山の安全を祈ります。

最後に、これからもウエスタン祭とともに、自然環境の保全や自然と人間社会との共生がずっと続くことを願っています。



田原小学校の生徒さん

ウエスタン祭関連行事

祖母山 1,759m

都甲 豈好 (No.12057)

11月4日 4台の車に分乗し、五ヶ所公民館を8時55分に出発して北谷登山口へ向かう。林道は高千穂町が事前に砂利等を敷いてきれいに整備されており、予定通り20分で北谷登山口に到着した。駐車場は先客で満車状態、車を寄せての駐車。登山準備と武田会員によるストレッチ体操のあと、登山口を9時50分に出発し、山岳信仰の山でもあり、神武天皇の祖母、豊玉姫命を祭る祖母山の山頂を目指した。

人工林(杉・檜)をジグザグに歩くこと1時間、呼吸もはずみ休憩(2合目)。このあたりから真っ赤なカエデの紅葉、ミズナラ・ブナ等の黄葉を楽しみながら4合目で休憩。尾根に差し掛ると登山道両側には、スズタケが群生し尾根を左折して展望台(4等三角点の表示)へ。展望台から、山一面のミズナラ、ブナ・カエデ等の見事な紅葉・黄葉に大歓声があがり、しっかりカメラに納めて尾根筋を少し下ると千間平。宮崎県と大分県そして熊本県をまたぐ三県境へと進み、ここから30分で国観峠へ到着(12時35分)。朝の出発の遅れからリーダーが、山頂まで登るのを見送り、ここで昼食と休憩をし下山することを決めた。昼食をすませ記念撮影のあと13時5分に国観峠から下山を開始。太陽の光を受けたカエデの見事な紅葉をカメラに収めながら15時38分全員無事北谷登山口に下山後、帰路についた。

<参加者19名> 久我慧子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・恒吉詔子・服部澄子・前原満之・荒武八起・都甲豈好・末永軍朗・谷口菊美・武田芳雄・櫻木勉・服部岩男・四宮林三・畑島良一・川越政則、他(栗巣タツ子、斎藤千代子)



国観峠にて

【第33回日本山岳会第33回全国支部懇談会】

万葉の嶺・筑波山に集う

恒吉 詔子 (No.13832)

○日時 平成29年10月13日～14日

○会場 筑波山中腹 つくばグランドホテル

“常陸の国・万葉嶺・筑波山へようこそ”と迎えられた今回の全国支部懇談会は支部長浅野勝見会員の茨城支部主催であった。全国26支部から約140名の会員が参加した。茨城支部は本年6月には創立10周年記念の年にもあたりこの上ない幸せということであった。2007年6月15日に創立の栃木支部に続いて27番目の支部として21名の会員で誕生し、現在会員45名支部友12名の計57名のメンバーで楽しんでいる。支部の活動としては毎月の山行、2ヶ月毎の市民公開講演会、自閉症支援の協力登山などを行っている。また創立5周年記念としての「茨城の山辞典」の初出版に貢献された酒井会員のご労作は支部の知的財産と考えている、など支部長挨拶の中で話された。

○記念講演

1 「古代の山の信仰・筑波山を中心として」

郷土史家 井坂敦実氏

2 「我が国の火山の現況・富士山も噴火するのか」

山梨県富士山科学研究所所長 藤井敏嗣氏

3 「100年目の剣岳三角点設置」

茨城支部会員 山田 明氏

三人共に筑波山、富士山、剣岳を通して深い知識を持たれ、熱意を持って取り組んでおられるのを感じた。懇談会では牛久の会による「相撲甚句」が披露され稀勢の里、高安の人気に火がついている。素晴らしい歌声を目の前で初めて聞くことができ良かった。地元の人たちの郷土力士に対する愛着をひひしと感じられた一夜だった。

翌日の山行では名札にリボンをつけてグループが色によってわかるような工夫や、茨城支部会員と分かるようにピンク色のジャンパーを着用するなど工夫されていた。講演時の機器の調子確認などは今後に生かしたいと思われた。

四・六のガマで有名な信仰の山

筑波山(877m)

服部 岩男 (No.13833)

朝8時にホテルを出発、歩いて直ぐに筑波山神社に到着。お参りした後、ケーブルカー駅まで続く線路近くの登山道を進む。自然石がごろごろしており歩きにくい。蛇紋岩に似た黒い安山岩で、蛇紋岩よりかなり固いが、登山者が多いので磨かれてつるつるに黒光りしている。濡れて滑りやすいうえに木の根も多し、赤土のためかなり登りにくかった。1時間半ほどで中間の「中の茶屋駅」に着き、ケーブルとすれ違いのを見学してから出発する。登山道の周りは数百年ぐらゐのヒノキやスギの巨木の樹林帯だ。ご神木として守られてきたのだろう。ケーブルの終点の御幸ヶ原に到着する。

土産物屋が数件点在、左に男体山(871m)右方向に女体山(877m)がある。まず男体山を目指す。さらに岩が多くなり滑りやすい。山頂の横に男性のシンボルと言われる岩があった。御幸ヶ原に下り土産物店の奥で昼食をさせてもらう。お礼にガマ(無事に帰るの意味)の置物を買う。食後直ぐに女体山に向かう。10分ぐらゐでカエルにそっくりのガマ石があった。山頂は晴れていれば大変眺めがよいそうだが霧雨で何も見えない。そのうえ石が滑りやすく危険だった。ゆっくり御幸ヶ原に下る。時間があまりなかったのでケーブルカーで下山する。

一度は登って見たかった山だったので大変満足した。

茨城支部の案内者には大変お世話になりました。

<コースタイム>

8:00ホテル発 -- 10:50御幸ヶ原 -- 11:25男体山 -- 11:45御幸ヶ原昼食 -- 12:45女体山 -- 13:10ケーブルカー 駅 -- 13:50ホテル着

<参加者14名>

久峯 慧子・谷口 敏子・恒吉 詔子・服部 澄子・荒武 八起・都甲 豊好・乾 正太郎・谷口 菊美・武田 芳雄・多田 周廣・服部 岩男・櫻木 勉・畑島 良一・川越 政則



歓迎の挨拶をされる茨城支部 浅野勝巳支部長



筑波山(女体山) 山頂

第33回全国支部懇談会 筑波山自然研究路コースに参加して 多田周廣(No.13780)

10月14日(金)9時30分。会場の筑波グランドホテルを出発。この研究路は筑波山(877m)の動植物を観察することを目的としている。主峰の男体山を中心に約2時間をかけて一周するコースであり、私と谷口さんとが参加した。研究路であるから体力のない私でも楽勝と思っていたがそうはいかなかった。ホテルを出て15分位で男体・女体山の二神の祭られている筑波山神社(3,000年の歴史を持つ古社)に到着し見学。

筑波山は「西の富士・東の筑波」と称されて先史時代から山岳信仰の対象とされ、日本最古の歌集である万葉集にも多くの歌が詠まれており、全域が国立公園になっているとのこと。

ホテルから神社までの歩道も歴史が感じられる。神社を散策後ケーブルカーに乗り、宮脇駅(標高300m)より山頂駅までの(800m)を約15分かけて登る。500mの標高さを約15分かけて登るのであるからその勾配たるや最も急なところで角度40度くらいはある。ケーブルカーの中から登山道が下に見えるが、荒武支部長以下11名は私たちより1時間早く男体山を目指し出発。約100分をかけて登山道を登っているが、今頃どのあたりだろうか。本日は小雨模様でもあり、

登山道もあまりよくなく大変だろうと思う。ほどなく頂上に到着した。残念ながら景色は無し、晴天ならば富士山なども遠望できるのであろうが……。

我々のこのコースには男体山本殿・筑波山の地形、地質、成り立ち・13歳の間宮林蔵が立身出世を祈願した立身石・巨木の(ブナ等)や花の名前等の説明板が多数あるアップ・ダウンのきつい散策路である。晴天ならば360度の景色が見渡せたであろうと返す返すも残念に思われた。

このコースに参加された86歳の男性は私や菊美さんと同様の心臓の手術を13時間かけて行われたとのことであるが、85歳を過ぎて90歳迄低山登山なら可能だと確信したと元気よく登っておられた。我々コースの参加者は年配者が多かったが皆元気だ。11時20分参加者全員無事踏破。再度ケーブルカーにて下山開始、11時50分ホテルへ無事到着。

今回の参加での収穫は、剣岳三角点設置を指揮(テレビで全工程を放映)し、“剣岳に三角点を!”の著者でもある国土地理院技官として在職された山田 明氏(茨城支部会員)と浴衣姿での記念撮影が出来たことである。

第33回全国支部懇談会 宮崎支部記念山行(10月15日)

大山丹沢山地山行報告

畑島 良一(No.13900)

大山は丹沢山地の東側にあたる。俗に東丹沢の山である。前日宿泊地から西を向けば、大山がピラミッド形状で鎮座している。古くは「雨降山」とも呼ばれ、修験者宿坊や大山詣で栄えていた。

7時ホテル発。伊勢原から大山街道を経て登山口バス停へ。ケーブル稼働時間調整でバス内一時待機。参道の長い階段の両側には民芸品店などが開店の準備をしていた。昔の懐かしい玩具が並べられている。阿夫利神社は関東総鎮護の由緒ある神社で上社と下社を有する。下社の体内を見学し聖酒を頂く。大山登山組、大山寺散策組で分かれる。登山口からいき

なり急こう配で長い階段。登山道は広いが大きな石を敷き石としていることが多く、ぬからなくてよいが下山が心配である。1丁目から30丁目以上あり目安となる。山頂には、神社上社や茶屋や売店があるが営業していない。雨は弱いながら登山中休みなく降っている。晴天時には、山頂から相模湾や横浜方面、丹沢の山波が遠望されるが何も見えない。下山は無造作に置かれた大きな石を足場とし急ぐ。大山寺組はケーブルを途中下車し名刹を堪能する。

<コースタイム> 海老名7:00 - 大山登山口駐車場8:10 - 大山参道ーケーブル駅9:15 - 阿夫利神社9:50 - 大山登山口11:00 - 大山山頂12:45 / 13:10 - 大山登山口14:00



丹沢 大山(1,251m)山頂



大山阿夫利神社

【熊本支部設立60周年記念】

11月18日、重廣恒夫日本山岳会副会長ご臨席のもとに熊本支部設立60周年記念祝賀会が開催された。参会者数は約100名、宮崎支部からは11名が参加した。記念講演として前支部長・工藤文昭氏が「六大州の山を目指して」と題して講演された。数多くの山歴と体験に基づいた内容に感銘を受けた。設立60周年記念誌は、「熊本県の一等三角点」の集中調査という特別企画など極めて格調高い立派なものであった。女子高校生会員・宮本恵さんの司会は、企画も含めて極めて新鮮であった。懇親会では、各支部の紹介と出し物、ピエントの演奏などで盛り上がった。翌19日の記念登山は、眺望の素晴らしい鞍岳を中心とした企画であった。(荒武記)

記念山行 Aコース: 鞍岳 -- 女岳 周回 登山の醍醐味と絶景

末永 軍朗 (No.13054)

日本山岳会熊本支部60周年記念集会の記念登山は、阿蘇外輪山の西端に位置する鞍岳(1119.9m)であった。麓から見る山の姿が馬の鞍に似ていることから名付けられたものだという。登山口がある菊池市泗水町の「四季の里」公園は、ホテルから車で約1時間30分ほど走った所にあり、公園広場に着くと早速グループ編成が行われ、われわれAグループは準備体操の後9時30分に登山開始。熊本支部会員の案内のもと良く整備された穏やかな里山風の山道を登り徐々に高度を上げてゆき頂上を目指した。

登山口から歩くこと約2時間。鞍岳の山頂を真上に見上げる鞍部に出ると、そこから岩場を這うように登ったりする急登がはじまり本格的登山という様相を呈してきた。急坂を約30分かけて登り続けると急に視界が開けてきたので、頂上かと思いきや鞍岳の女岳頂上であった。しばらく休憩をしているとBコースのツームシ山登山組と合流することになり、広場で共に昼食を取った後、さらに10分くらいかけて鞍岳の頂上を目指した。鞍岳頂上は、まさに360度のパノラマ展望台。北には由布岳、英彦山の山々、東には九重・阿蘇連山、祖母・傾の山波、南西方向には熊本市、菊池市、大津町の街並みが一望に見え実に素晴らしい景観であった。この日は、風は少々冷たかったが絶好の天気恵まれ、視界も良く目の当たりにする絶景の広がり登山の醍醐味と満足感そして幸せ感を十分に味わうことができた。下りは鞍岳を一周するような通称パノラマコースを通過して下山し、登山口に午後3時半ころ着いた。残念なことに山の紅葉は時期が過ぎており、また花もない時節であったが、その中で、下山口付近で見かけた赤く鮮やかに染まった1本のモミジと、登山途中の脇にひっそりと咲いていたツルリンドウの花一輪が特に印象に残った。帰途は、お世話をしていただいた熊本支部会員の皆様に感謝しつつ、高森町、高千穂町経由で宮崎に向かった。

<Aコース参加者>

多田登美子・服部澄子・末永軍朗・畑島良一・川越正則

記念山行 Bコース: 花コース -- ツームシ山 -- 鞍岳 -- 女岳 -- 子岳 周回

谷口 菊美 (No.13061)

届いた案内にはBコース30分とあり、どうやって時間を過ごそうかと案じていたが、いただいた資料を見ると3時間の行程に少しほっとする。天気は快晴、8:15 ホテル出発。約1時間少して「四季の里」到着。班編成のあとBコース班はさらに車で鞍岳直下駐車場に移動。準備運動を済ませて左側の登山道に入り、よく整備されたアセビの森の中をしばらく行くと、右ツームシ山・花コースの案内表示がある。花コースに入りいったん谷に下り、谷を越えると平坦な山道となる。

左側自然林、右側はつつじを主体に植樹されているが下草もきれいに刈り払われ、陽だまりに誘われたかつつじがちらほらピンクの花を咲かせていた。この花コース終点から左折ししばらく行くと、鞍岳からツームシ山に向う道に合流する。ここからなだらかな広い尾根道を10分ほど登るとツームシ山頂に到着した。阿蘇五岳や菊池平野が一望に見渡せる絶景を堪能する。ツームシ山の異名を工藤氏に尋ねると「ツー」という甲虫が沢山いてこの山の草木を食べつくしたことからついたという。現在はこの山域は春から夏にかけてたくさんの花が見られるらしい。ここから往路を下り女岳・鞍岳鞍部でAコースと合流し昼食。昼食後鞍岳に登る。山頂はツームシ山同様遮るものがない360度の大きなパノラマに、熊本の大自然の大きさを感じた。

ここからまた鞍部に下り、女岳から子岳へと天空のプロムナードを辿り、アセビの群落の中を下る。アセビはすでに赤い花芽をびっしりつけており、来春はどんな花道になるのか見たいものだと思います。駐車場まで下り、「四季の里」で閉会式の後再会を期して解散した。爽やかな晩秋の一日、久しぶりに阿蘇の絶景を堪能した山旅であった。熊本支部の皆さんに感謝!

< コースタイム 3時間 >

四季の里から鞍岳山頂直下駐車場へ車移動 -- 花コースを登りツームシ山 -- 往路を下山 -- 女岳・鞍岳鞍部にて昼食 -- 鞍岳 -- 女岳 -- 子岳 -- 駐車場下山後「四季の里」で解散式

< Bコース参加者 >

谷口敏子・都甲豈好・谷口菊美・多田周廣

【12月定例山行】 双石山清掃登山・登山道点検に参加して 12月9日(土)

天候に恵まれた当日、集合場所の小谷登山口には8時前に到着したが、すでに多くの会員が清掃を始めていた。昨年同様にゴミの量は多く、大きなゴミ袋7個も在った。その後準備体操を行い、8時40分に登山開始。磐窟神社・天狗岩・針の耳・空池を経て大岩展望所に行く。自然の造形に関心しながら第二展望所に到着。眺めを楽しんだ後、山小屋を経て尾根筋に行く。双石山(509.8m)の頂上に11時20分に到着。赤松の間からの素晴らしい展望の中で弁当を開いた。その後、11時45分下山を開始。登山時の厳しさから、帰りは軽い気持ちで大木の中、根っ子を踏みしめながら降りる。途中、姥ヶ岳神社に参拝し無事に登山が出来た事を報告した。小谷登山口に12時55分に到着し13時10分解散した。

<参加者 20名> 四宮 林三 (No.15079)

梶恵子・清水弘子・清家順子・谷口敏子・多田登美子・橋口三枝子・前原満之・荒武八起・都甲豊好・日高研二・乾正太郎・末永軍朗・武田芳雄・多田周廣・櫻木勉・弓削達雄・畑島良一・四宮林三・川越正則



回収した7袋のゴミを前に

【グループ登山】 南アルプス・荒川三山・赤石岳

橋口 三枝子 (No.14885)

荒川三山は悪沢岳、中岳、前岳の3座で縦走コースに赤石岳がある。宮崎から登山口の樫島まで1日がかかりで着く。千枚小屋から赤石岳のコースを回るルートで登る。まだ薄暗い中、千枚小屋に向け高低差約1,400mを登る。天気も回復。ツガやモミの林の中急登が続く。清水の冷たい水が美味しい。樹林帯の中の登りで視界はきかないがシラビソの林が美しい。蔵段の小さな広場でほっとするも直ぐに急登や緩やかな登りを繰り返しながら駒鳥池に着く。ここまでくるとあと少しだ。8時間半かかって千枚小屋に到着。山小屋の人に「ここまで長く苦しいですね」と話すと「これからが本番だよ」と言われ少々不安になるが、明日に備えてゆっくり体を休める。

2日目はダテカンバの林からハイマツ帯となり、展望の良い砂礫を登っていく。千枚岳の山頂。富士山が見事だ。山から見る富士山はこのコースが一番だと言われるとおり雄大な姿を見せてくれる。花の盛りは終わっていたが、それでもまだ残っていて楽しむことができた。斜面に咲いている花も多く夢中になって足を踏み外さないよう注意も必要だ。カールの紅葉がきれいだ。真っ赤に色づいた浦島ツツジも美しい。

南部の最高峰の悪沢岳は岩石が重なり合った山頂でこれまた360度の大展望、北アルプスの山脈まで見ることができる。山頂からの瓦礫の急斜面を注意しながら下り中岳山頂に着くと風が吹いていてさすがに寒い。荒川前岳山頂から中岳のカールを見ながら斜面

全体に広がるお花畑は南アルプス最大だといわれている。荒川小屋着。3日目は、荒川小屋より日の出前の空が赤く染まり富士山が幻想的で素晴らしい。山の斜面をトラバース、朝焼けの山が美しい。石屑の斜面をフウフウ言いながら小赤石から赤石岳山頂に着く。南アルプスの雄大な山々に魅了される。赤石避難小屋では管理人さんより素敵なおもてなしを受ける。山の先端に案内してもらい、この谷から雲ができるのだと言うこと、その他にも色々貴重な話を沢山していただいた。それらに加えて素晴らしいハーモニカの演奏、もう皆感激で涙、涙だ。お別れする時も「雪山賛歌」で見送ってもらった。赤石岳から急斜面を下り、岩場の取り付きを慎重に下り赤石小屋着。山小屋での料理はどれも美味しく楽しみの一つだった。最終日、樫島に向け1,400mを一気に下りる。10時半のバスに間に合うように・・・晴天に恵まれ、メンバー全員この大きな山に登れたことに感謝。



2017 09 25

【山行報告】女鈴山(741m) 男鈴山(783.4m)

男鈴に寄り添う女鈴山 10月9日(月)

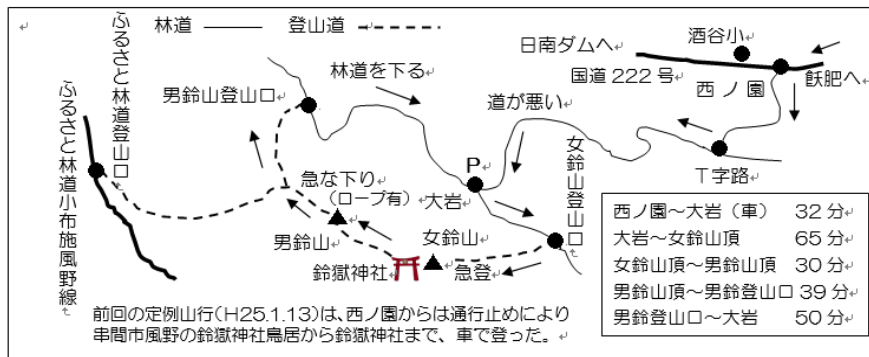
前原 満之(9878)

日南市体育協会と日南市山岳連盟(日南山の会等加盟)主催の市民登山大会が行われたので参加した。10月15日(日)予定されていた、当会の同山での定例山行が中止となった事もあり、私の単独参加ではあるが報告したい。(参加者:45名)



女鈴山の山頂から身を乗り出すことで、近くに男鈴山の山谷、遠くに小松山が遠望できる。

*今回、悪路のため一部の車は大岩より手前に置いた。



女鈴山の山頂は広く串間から大島、日南市街、飢肥まで見渡せる。男鈴山の山頂は、見晴らしがきかなかったが最近、一部が切り開かれ大島が覗ける。

【バテないためには、出発前炭水化物を！】開会時、山岳連盟上原さんのアドバイス

【宮崎の自然】 リンドウ

リンドウの花は晩秋の山を歩く人の心をこよなく慰めてくれる。ひっそりと澄んだ藍色に輝き、通る人の目をとめ印象もあざやかである。高原の花の中でしんがりに咲くリンドウに清少納言は「異花どものみな霜枯れたるに、いとほやかなる色合いに」と読んでいるが、晩秋の野に彩をあたえ花の色は青紫で霜枯れの高原に花の季節の終わりを示している。

リンドウは中、大形の多年草でシイ・カシ帯とブナ帯の草原や林のへりに生育し分布は本州・四国・九州で和名は漢方の龍胆の日本語読みのなまりである。

リンドウ科の植物は異なった性質の植物の集合体で種の分化が活発に行われ、リンドウの根は太くて木質で花は4または5数性、花弁は合弁放射相対で裂片は開花前は右巻きに重なりあい果実は蒴果である。

リンドウの仲間は切り花とか薬用植物として知られているが、和名の龍胆は苦い薬として有名な「熊胆」に匹敵する苦さからその名が付きリンドウ属の植物からとれる生薬にはゲンチアナ、龍胆、秦艽(ジンギョウ)がある。ゲンチアナはヨーロッパの山地に生育するゲンチアナ。ルテアの根茎と根を乾燥させたもので古代ローマ時代に薬草として利用されている。胆汁や唾液の分泌促進作用があり苦味健胃薬として用いられていた。

石井 久夫(5120)

苦味の主成分はゲンチオピクリン(配糖体)で学名はGentianaで日本に分布するのは花粉の形態で分類されリンドウ属、シマセンブリ亜属に分けられ、根は漢方で龍胆といわれ昔からゲンチアナ根の代用として使用されている。

我が宮崎の霧島山系に産するリンドウは近年、頭にキリシマをつけてヤマリンドウまたはホソバリンドウと呼ばれたものがキリシマリンドウと呼ばれるようになった。秋に咲くキリシマリンドウの他に春には1~2年生の野生のハルリンドウやフデリンドウがあるが全国的に分布している。また背丈は低いがえびの高原の池めぐり観察路ではあちこちにコケリンドウがみられる。その他に近縁につる性の多年草にツルリンドウがあり花冠は淡紫色で液果は紅紫色で美しい。

<メモ>

リンドウ(Gentiana scabra buergeri)
晩秋の野原に生育する20~100cmの多年草、葉は対生し卵状被針形、青紫色の美しい花で長さ4~5cmあり茎の先端や葉のわきにつく。夏期は9~11月。

リンドウ Gentiana scabra buergeri



[事務局だより]

支部行事予定

月	行事名	期日	備考
1月	定例山行・高房山	1月21日	宮崎市高岡町
2月	定例山行・丹助岳	2月17日	日之影町
3月	第33回諸塚山 山開き	3月3-4日	諸塚村

支部会務報告(10月～12月)

月日	事業・行事	開催場所	参加人員	備考
10.5	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	9	第33回宮崎ウエストン祭・全国支部懇・第23回中央公民館祭等
10.5	第223回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	22	第33回宮崎ウエストン祭・全国支部懇・第23回中央公民館祭、ミニ講話(櫻木会員)
10.14	第33回全国支部懇談会	茨城県筑波市	14	記念講話・懇親会
10.15	同上・記念登山	同上	14	筑波山
10.16	同上・支部記念登山	神奈川県	14	丹沢山系・大山
10.21	支部役員・委員長等会議	宮崎市民活動センター	6	第33回宮崎ウエストン祭について・第23回中央公民館祭等
11.2	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	10	第33回宮崎ウエストン祭・第23回中央公民館祭・支部晩さん会等
11.2	第224回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	26	第33回宮崎ウエストン祭・第23回中央公民館祭・支部晩さん会等、ミニ講話(櫻木会員)
11.3	第33回宮崎ウエストン祭	高千穂町五ヶ所	170	北九州支部17、福岡支部2、熊本支部11、宮崎支部21、他120
11.4	同上・記念登山	高千穂町・大分県緒方町	30	祖母山・熊本支部11人・宮崎支部19人
11.13	支部役員・委員長等会議	宮崎市民活動センター	8	宮崎家裁委託登山・熊本支部創立60周年・第23回中央公民館祭等
11.18	熊本支部設立60周年記念式典	熊本市	12	記念式典・記念講演・懇親会
11.19	同上・記念登山	菊池市	9	ツームン山・鞍岳
11.23	公民館祭準備委員会	宮崎市民活動センター	8	展示用パネル作成等
11.24	宮崎家庭裁判所委託登山	宮崎市	22	双石山
11.25-26	第23回公民館祭り	宮崎市中央公民館	15	展示パネルの説明等
12.7	支部役員・委員長等会議	宮崎市中央公民館	10	支部晩餐会・定例登山・清掃登山等
12.7	第225回定例登山研究会	宮崎市中央公民館	21	支部晩餐会・定例登山・清掃登山、ミニ講話(櫻木会員)
12.9	定例山行	宮崎市	20	双石山(清掃登山)
12.9	支部晩餐会	宮崎市	30	木綿屋
12.18	支部報編集委員会	宮崎市民活動センター	4	支部報63号

グループ・個人山行(届け出分)

月日	山座	場所等	参加人員	代表	日数	備考
10.4	宮島・弥山	広島県	10	畑島良一	1	
10.27-30	大倉山、八甲田山	青森県	2	都甲豈好	4	
10.29	宝永山(富士山)	静岡県	5	畑島良一	1	
11.15	高房山	宮崎市	2	畑島良一	1	
11.23	大菩薩嶺	山梨県	8	畑島良一	1	

事務局からのお知らせ

1. グループ・個人登山の事前届けについて

グループ及び個人山行をされる時は、事前に支部事務局へ「登山計画書」をメール、ファックス等で送付下さい。支部はその計画書を本部へ届けることが義務付けられました。皆様のご協力をお願いします。なお、ツアーや他団体が主催する山行に参加する場合には届け出は要りません。

2. 平成30年度の支部定例山行計画等に関するアンケートについて、メール、ファックス等でご回答下さい。

編集後記

色々な行事に追われた10月～12月でした。特に第33回ウエストン祭は今年認定された「祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク」を盛りあげようと県も地元も大変な力の入れようでした。その中で私たち会員も右往左往しながら無事終了する事が出来ました。来年への課題も残りましたが……。寄せられた原稿の中からもみ取っていただけたら嬉しく思います。一番の私たちの励みは会員の多数の参加です。

本年もよろしくお願ひ致します。

去年(こそ)今年

貫く棒の如きもの 高浜虚子

公益社団法人 日本山岳会宮崎支部報 第63号

発行責任者：荒武 八起

編集責任者：谷口 敏子

事務局：都甲 豈好

〒880-0926 宮崎市月見ヶ丘5-20-4

Tel, Fax 0985-53-0150

E-mail toko150@mizazaki-catv.ne.jp

郵便口座 記号17330 番号9336371

銀行口座 宮崎銀行県庁支店普通 28668

日本山岳会宮崎支部